

## 4 安定生産可能な水田農業の実現

### 【成果の要約】 水稻農家の経営改善と産地の育成が図られた。

- ・作期分散による中・大規模経営体の育成  
栽培品種を3種類以上導入した実践農家は8戸確保した。
- ・スマート農業を活用した収益安定・省力化に向けた支援  
スマート農業への関心が高まり、ドローンや水管理システム等の導入が図られた。
- ・加工用米生産組織における生産強化支援  
取組農家数は54人、栽培面積225haで県内有数の栽培面積を維持している。

### 1 対象

川薩地区稲作研究会員37戸，加工用米生産者54戸，実証農家2戸

### 2 課題を取り上げた背景・ねらい

- (1) 作期分散による中・大規模経営体の育成  
主幹品目を水稻とする新規就農者は，平成30年までの5年で5人であり（川内2，東郷2，他1），経営面積10ha以上は22戸，20ha以上は5戸（市農業再生協議会報告）であり，水田面積のそれぞれ2割，1割の集積にとどまっている。また品種構成では，早生のヒノヒカリが主力品種であり，田植期や収穫期に労力が集中するため，規模拡大が難しくなっている。
- (2) スマート農業を活用した収益安定・省力化に向けた支援  
薩摩川内市の中山間地域の水田は狭小で，排水不良田が多く，作業効率が高まらず農地集約が進みにくい。また，労力不足が発生しやすく適期管理が難しい。
- (3) 加工用米生産組織における生産強化支援  
川薩地域稲作研究会等において，栽培技術等の情報交換の場は確保されつつあるが，農家間のネットワークが不十分である。加工用米の単収が高まらず，個人間差異や地域間差が大きい。

### 3 活動の内容及び成果

- (1) 作期分散による中・大規模経営体の育成

#### ア 規模拡大支援

規模拡大を支援するため，作期分散が可能な品種「なつほのか」・「たからまさり」の実証ほを設置し，現地検討・実績検討を行い，作期拡大を提案するためのデータを紹介した。これらの取組により，数品種導入し作期分散に関心を示す生産者が現れてきた。

作期分散により，効率的な適正管理が行えるため，経営規模拡大を目指し，所得向上をめざす生産者が増えてきた。



なつほのか展示ほ現地検討会（7月）



稲作研究会の室内検討（12月）

#### イ 農地集積活動実践支援

東郷町斧淵地区の担い手候補の農業法人に対し，営農実績の把握と基盤整備後の作付計画作成等を支援した。

(2) スマート農業を活用した収益安定・省力化に向けた支援

スマート農業の各種機種（水管理システム・ドローン防除）を現地で実演し，操作性等の確認を行った。水管理システムは昨年度選定した1機種を祁答院地区に導入し，水管理の省力化による単収への影響等を聞き取り，課題等を検討した。

稲作研究会員の中には，経営継続補助金等を活用しドローンを導入し，病虫害防除に活用する事例が増えた。



稲作研究会の現地検討（7月）



水管理システム水位調整作業（8月）

(3) 加工用米生産組織（薩摩川内市加工用米研究会）における生産強化支援

各種研修会や会合を通じて加工用米導入の有利性（安定的高収益，作期分散に寄与）を周知した。また面積契約から数量契約に切り替えるよう契約方法の切替を推進した。

目標数量を確保するために，単収向上を図る意識が年々高まっている。



焼酎麴用米現地検討会（10月）

#### **4 残された課題**

(1) 作期分散による中・大規模経営体の育成

早生品種と中晩生で単収が高く安定品種を組み合わせた経営確立を推進する必要がある。団地化による水管理の効率化を図るため，地域内合意が必要である。

(2) スマート農業を活用した収益安定・省力化に向けた支援

作付計画に沿った計画的作業の推進

(3) 加工用米生産組織の単収向上対策

中晩生品種を中心とした水管理，病虫害防除等適期作業の推進

#### **5 取り組んだ普及員**

○山方，上吹越